

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成22年7月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成22年6月分(平成22年5月31日～6月27日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	27	0.06	0.23	↓	10	百日咳	41	0.14	0.10	↗
2	RSウイルス感染症	9	0.03	0.04		11	ヘルパンギーナ	292	1.01	1.41	↑
3	咽頭結膜熱	302	1.05	0.85	↗	12	流行性耳下腺炎	503	1.75	0.96	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	344	1.19	1.84	↗	13	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,572	5.46	4.58	↘	14	流行性角結膜炎	109	1.43	1.31	↗
6	水痘	686	2.38	1.96	↗	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	678	2.35	1.63	↗	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.11	
8	伝染性紅斑	46	0.16	0.38	↗	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.28	→
9	突発性発しん	192	0.67	0.79	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成22年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	45	1.96	2.30	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	131	6.24	5.53	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.91	0.73	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	35	1.67	1.89	→
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.66	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.19	
22	淋菌感染症	27	1.17	0.83	↗						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 ヘルパンギーナ(83件 292件)
急減疾患 インフルエンザ(138件 27件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	45	結核〔西部保健所(10),西部東保健所(4),東部保健所(4),広島市保健所(16),呉市保健所(5),福山市保健所(6)〕
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症(4) O157(1)(福山市保健所),O26(1)(西部東保健所),O103(2)(福山市保健所)
四類	6	A型肝炎(3)(西部保健所,東部保健所,呉市保健所),日本紅斑熱(2)(東部保健所,呉市保健所),レジオネラ症(1)(広島市保健所)
五類全数	10	後天性免疫不全症候群(8)(広島市保健所(5),呉市保健所(1),福山市保健所(2)),急性脳炎(1)(広島市保健所),風しん(1)(呉市保健所)

3 一般情報

(1) これからの時期に注意すべき感染症について

咽頭結膜熱(プール熱)及びヘルパンギーナが4月から6月にかけて増加(特に,ヘルパンギーナは3か月連続して急増疾患)しており,これらの病気は,手足口病と同じく,毎年初夏から秋にかけて流行する,いわゆる「夏かぜ」の代表的なもので,特に10歳までの小さなお子さんは注意が必要です。

咽頭結膜熱(プール熱)

病原体	アデノウイルス
症状	発熱で発症し,頭痛,食欲不振,全身倦怠感とともに,咽頭炎による咽頭熱,結膜炎に伴う結膜充血,眼痛,羞明,流涙,眼脂を訴え,3~5日間程度持続します。潜伏期間は5~7日とされています。
感染経路	プールを介した場合には,汚染した水から結膜への直接進入と考えられていますが,それ以外では,通常飛沫感染,あるいは手指を介した接触感染です。
予防方法	・ 感染者との密接な接触は避け,うがいや手洗いを励行してください。 ・ 水泳をする際は,プールに入る前後にシャワーを十分に行い,タオルの共用を避けることが大切です。

ヘルパンギーナ

病原体	A群コクサッキーウイルス
症状	突然の発熱に続いて,咽頭粘膜の発赤が顕著となり,口腔内に小水疱が現れます。小水疱はやがて破れ疼痛を伴います。潜伏期間は2~4日とされています。 ・ 喉や口の中が痛く,食事が摂りにくい場合は,あまり噛まずに飲み込める柔らかい物を与えましょう。 ・ 高熱が出ているときには,脱水状態にならないよう,水分の補給を充分に行ってください。
感染経路	接触感染を含む糞口感染と咳などによる飛沫感染です。急性期に最もウイルスが排出され感染力が強いのですが,回復後も2~4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されます。
予防方法	・ 乳幼児のオムツ交換の際には,手洗いを励行し,洗濯物は日光で乾かすことなどです。

(2) 海外で注意が必要な感染症について

夏休み期間中は,海外へ旅行される方が多い時期です。海外で注意が必要な感染症をいくつか紹介します。

食べ物,水を介する感染症.....コレラ,細菌性赤痢,腸チフス,A型肝炎(発展途上国)など
蚊が媒介する感染症.....マラリア,デング熱(熱帯・亜熱帯地域),ウエストナイル熱(北アメリカ)など
動物が媒介する感染症.....狂犬病(世界各地),鳥インフルエンザ(南北アメリカを除く世界各地)など

渡航先や,渡航目的によって注意する感染症が異なります。渡航前には,厚生労働省検疫所のホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)などで渡航先の感染症情報を確認するようにしましょう。